

2015年7月14日 掲載 輸送経済新聞

寄付10年目で感謝状

盲導犬育成を支援する第一貨物(本社・山形市、武藤幸規社長)の長年の取り組みに対し、六日、日本盲導犬協会から感謝状が贈られた。

盲導犬育成をはじめ視覚障害者の社会参加促進を図る同協会の吉川明理事が、PR役を務めるオス犬の「ブレイブ」を連れて山形市諏訪町にある第一貨物本社事務所を訪問。同社を代表して岸仁常務が表彰状を受け取った(写真)。

第一貨物は平成十八年から毎年百万円ずつ、十年間

第一貨物 盲導犬育成を支援

年三月末時点で七十二頭が活躍している。

吉川理事は「仙台訓練センターが東北唯一の施設として造られて間もない頃か行方訓練センターに寄り、第一貨物さんには大き付してきた。同センターでな支えになってもらっている育てられた盲導犬は東北六」と謝意を表明。その上

人と社会に
優しい企業

で計一千万円を盲導犬育成や視覚障害者のリハビリをして造られて間もない頃か行方訓練センターに寄り、第一貨物さんには大き付してきた。同センターでな支えになってもらっている育てられた盲導犬は東北六」と謝意を表明。その上



吉川理事(右)から岸常務に表彰状が手渡された

岸常務は「当社は公共の道路を使って事業を営む企業。交通安全に寄与する観点からも、今後も支援を継続していく」とした。同社では、ブナの植樹や地元サッカーチームへの協賛、アフガニスタンにランドセルを贈る地元高校の取り組みへの協賛などさまざまな活動に参画。人と社会に優しい企業を目指している。

(矢田 健一郎)